

テラ・ドームぬりえ

たいようけいてんたいへん
太陽系天体編

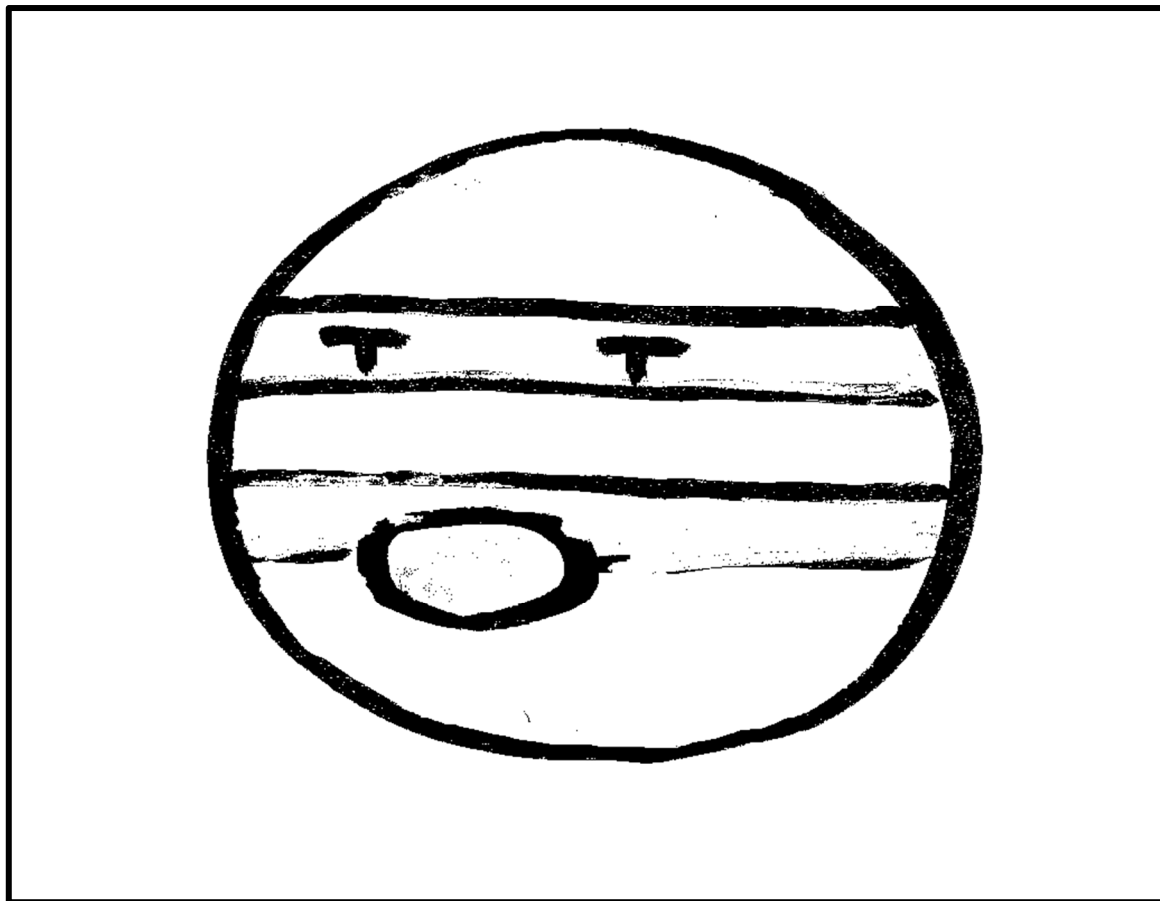
その8

もくせい

木星



太陽系で最大の惑星。ガス惑星の一つで、直径は地球の約11倍。質量は地球の318倍(太陽の約1000分の1)、太陽からの距離は約7.8億km、自転周期は約10時間。水素とヘリウムが主成分であるが、コアがあり、コアの倍と考えられているが、木星の中心の状態を推定する方程式が明らかでない。コアの大きさ、組成についての全ガス惑星は、十分小さくなった氷太陽系円盤ガスを取り込み形成空の雲は東西方向に帯状になっており、最大のものは大赤斑と呼ばれる望遠鏡での観測で発見される存在していると考えられている。2019年10月現在、最大の順行衛星であるイトを発見者にちなんでガリレオ星形成の終盤、木星の周りにガスが衝突合体を繰り返して形成さには逆行方向に公転するものも系外から捕獲されたと考えられている。そのため、探査機ボイジャー1号の在が明らかになっていなかった。詳しく観測された。細く最も明一と呼ばれる、鉛直方向にも広がっている。これらは微小衛星に隕石が衝突してまき散らされたダストが環になったと考えられている。木星は質量が非常に大きく、太陽系のほかの天体ができてから進化していく過程に大きな影響を及ぼしていると考えられている。



木星の外層と金属水素層、岩石と水質量は地球質量の数百倍から十数百倍。心はあまりにも高温高圧で、物質がない。そのため、貌は明らかになっていない。巨大からなる原始惑星が、周りの原始されると考えられている。木星上では、その中に楕円形の渦構造が形成されている。ガリレオ・ガリレイ以前から、数百年以上にわたって木星は強い磁場を持ち、オーロラが72個の衛星として確認されてオ、エウロパ、ガニメデ、カリス衛星と呼ばれる。ガリレオ衛星は、木星とともに流入してきた固体物質がたまり、と考えられている。衛星の中あり、不規則衛星と呼ばれ、木星の衛星。木星にも環があるが、暗く観測によって発見されるまで存在。その後の探査機ガリレオによって、主環リングの内側にはハロッドの環があり、外側には希薄な小さなダストで、環の周辺にある

